

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0972700413		
法人名	医療法人普門院診療所		
事業所名	グループホーム能羅坊		
所在地	栃木県芳賀郡益子町益子25番地 (電話) 0285-70-1155		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年8月3日	評価確定日	平成21年9月14日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 8 人	常勤8人(うち兼務1人), 常勤換算5.5人 常勤6人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての1~2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	・理容代—1,500円/回、美容代—1,000円/回 ・おむつ代—15円~100円/枚 ・光熱水費—500円/日 ・消耗品費—100円/日
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 250 円 夕食 400 円 または1日当たり	昼食 おやつ	350 円 100 円 円

(4) 利用者の概要(平成21年7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 87.5 歳	最低 75 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 普門院診療所
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、里山や農家が散在する自然豊かな場所にあり、母体である医療法人が認知症介護の場の必要性を感じ開設したホームである。開設にあたっては、高齢者福祉の先進国スウェーデンから専門家を招いて研修を行ったり、職員をスウェーデンに派遣し、グループホーム運営のノウハウを習得している。「他者を自己と平等とみなして個性と尊厳、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供すること」を理念に掲げ、職員は明るく、優しい言葉かけや態度で入居者に接している他、音楽療法も取り入れるなど、入居者の張り合いにもつながっている。また、地域住民を対象に認知症についての講話や運営推進会議の議事録をホームページ上で公開するなど地域に開かれた施設運営に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえて、理事長及び管理者が講話をしたり、パンフレット等を配布して積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、評価の目的や意義を職員間で話し合い、理解した上で全員で目を通し職員がそれぞれ分担して記入し、管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者家族代表、民生委員、町職員、地域包括支援センター職員、有識者がメンバーになっており、ホームの状況を伝え、地域、家族間の交流等具体的な意見や助言をもらえるように取り組んでいる。会議は2ヶ月に1回開催し、運営推進会議の報告(議事録)をホームページ上で公開している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や電話などで健康状態や暮らしぶりを伝えたり、要望や意見を言ってもらえるよう働きかけている。家族から話等があった時には、申し送りノートを活用し、職員間で共有を図り、その都度改善に努めている。預かり金は出納帳で管理し、内容を報告している。法人の広報誌において、行事の報告や職員の異動等を掲載している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭りやクリスマス会、認知症についての講話などに地域の方に参画してもらっている。自治会に加入しており、散歩の際に言葉をかけたりしながらホームと地域の人々が支え合うような双方向の関係づくりに努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	仏教の教えを福祉の根拠として、他者を差別せず自己平等とみなし、個性と尊厳、本人の意思を尊重して、相手の立場に立ったサービスを提供する事を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念について話し合いの機会をもち、共に意識しながら、日々のサービスの提供（言葉かけ、態度、記録等）において、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りやクリスマス会、認知症についての講話等に地域の方に参画してもらっている。また、散歩の際に言葉をかけたりしながらホームと地域の人々が支えあうような双方向の関係づくりに努めている。自治会にも加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果や改善シートを点検し、質確保・向上について確認しながら再度評価の目的や意義を職員間で話し合い、職員がそれぞれ担当して記入し、管理者がまとめている。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族代表、民生委員、町職員、地域包括支援センター職員、有識者がメンバーになっており、ホームの状況を伝え、地域、家族間の交流等具体的な意見や助言をもらっている。会議は、2ヶ月に1回開催しており、運営推進会議の報告書（議事録）をホームページ上で公開している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での意見交換、町主催の行事に参加したり、ホームが行う行事などに参加を呼びかけている。法人常務理事は町の高齢者福祉計画の策定委員なども担っており、町担当者との関係は構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話連絡等で健康状態や暮らしぶりなどを伝えている。預かり金は出納帳で管理して内容を報告している。法人の広報誌にて行事の報告や職員の紹介欄も設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話連絡の際に、気軽に要望や意見を言ってもらえるよう働きかけている。家族から要望等があった時には、申し送りノートを活用し、職員間で共有を図るとともに、改善に努めている。	○	家族同士の集まりの場で家族の意見、不満、苦情を表せる機会づくりとして、家族会等を設ける仕組み作りに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係づくりから東棟と西棟の交流を図っている。職員の異動は、やむを得ない場合を除き、最小限に留めているが、異動の場合は、利用者個人個人に対する健康問題、労務、医療機関、情報交換等事前に時間をかけて引継ぎをしている。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老人保健施設と共に年間計画を立てて、感染症の予防や緊急時の対応等の研修を行っている。外部研修に参加した時は、報告書を作成し、職員間での研修内容の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しているが、他のホームとのネットワーク作りには取り組んでいない。	○	地域の同業者とネットワークづくりや勉強会、相互訪問等を通じて職員間の交流や連携を行えるよう事業者同士協働しながら質向上に取り組むことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学等で希望や悩みなどを聞き、入居時の状態や状況にあわせ、数日間家族の方に付き添っていただき、本人の様子を見ながら声かけを行う等、入居者との関係づくりに配慮し、徐々に馴染めるよう支援をしている。	○	当ホームは、希望があれば体験入居も取り入れたいとの意向であるので、入居希望者にホームに気軽に遊びに来てもらったり短期間の体験入居等により、入居時の不安解消や負担軽減ができるような取り組みに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人の思いや、喜び、不安等を把握することに努め、暮らしの中で分かち合い共に支える関係づくりに配慮している。職員は年長者である入居者から、調理方法を教えてもらう場面も見られた。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は本人の思い、希望、意向の把握に努めている。入居者の言葉や言葉にしづらい思いを日々の行動や表情からくみ取り、本人の視点に立った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や思いを反映しながら、毎日の申し送りや介護記録、カンファレンスなどを通し、必要に応じて家族を交えて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月の定期的な見直しの他、入居者の状態等に変化が生じた場合などには、家族とも相談しながら随時見直しを行っている。また、日々の生活の中でも職員間で相談しながら支援方法の変更等を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療機関であることから、受診、入院などの連携が取りやすい体制になっている。尚、希望に応じて家族とも連携しながら、対応している。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が診療所であり、密に看護職との連絡を取りながら対応をしている。診療科目がない場合等は、診察が家族の支援の下で適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いかホームとしての対応しうる最大の支援方法を踏まえて方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止に努め、守秘義務の徹底が図られている。また、会話や行動の中から誘導の声かけを行い、目立たず、さりげない対応ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切に、希望に沿った過ごし方が出来るような支援に努めている。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必要に応じて入居者の介助もしながら楽しく会話をして同じ物を食べていた。また、近隣や家族からの頂き物なども利用したりしている。入居者の出来ることに配慮しながら下ごしらえや、後片付け等も一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調を勘案しながら週2～3回職員が1対1で入浴の支援を行っている。毎日入浴する方もいる。浴槽は猫足の西洋風でやや高さもあるが補助具等を使用し、安全に配慮がされている。各居室にシャワーが付いており、シャワー浴も対応が出来るよう配慮されている。	○	西洋風の浴槽に入り、浴室の窓から野山の風景を見ながら楽しむことができる支援がなされているが、脱衣室と洗濯室との兼ねあいから洗剤等の配置に工夫を重ねていく事に期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しめるよう無理のない範囲で潜在している記憶や能力を個々に引き出しながら、習字、手芸、音楽療法等を行っている。また、町の芸術祭へ参加し、作品を展示することにより、達成感や充実感を味わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感刺激として近所の寺院や益子焼きの見学、山の展望台、湖等にドライブに出かけたり、年1～2回外食なども行っている。時折、家族にも声をかけ参加を呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの中で日中は鍵をかけていない。入居者一人ひとりの外出傾向を把握し、職員の支援も行き届いている姿がみられた。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	土砂災害に対するマニュアル作成や火災時の避難訓練を年2回日中と夜間を想定して実施している。	○	ホームとして災害に対するマニュアルを作成し研修を重ねているが、避難訓練への地域住民や消防団の参加及び協力の呼びかけを行う他、食料等の備蓄準備も検討されることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給、栄養バランス等を把握するため、定期的に体重測定を行い、一人一人の支援をしている。日々のバイタル測定の中での変化時においては、速やかに医師と連絡をとり、指示のもと、対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を漂わせる飾り付けや花の飾りつけなどに工夫している。玄関が吹き抜けになっており、明るい雰囲気共用空間になっている。年間を通して適切な温度管理ができており、気になる臭いもない。気密度の高い造りとベンチレーションシステムとなっている。ダイニングテーブルとソファ、ピアノ等が有り、ゆっくりとくつろげる空間づくりが配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室部分が明るく広くとられており、本人の馴染みの物、机、テーブル、家族との写真等が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。また、各居室に設置されているトイレは広く明るい他、シャワー設備もあり、いつでもシャワー浴が出来るよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。